Edo Letter

江戸川大学 学報

edodai.jp

2023年6月
Vol.22 No.52

◉主要日程
◉主要行事
◉人事
◉諸報
学内行事　教育活動　研究活動
社会・地域との連携・交流活動
紀要等の発行　研究レポート
2022年度優秀論文発表会
◉栄典・表彰
◉施設・設備
◉今年度の体制等
◉連載
「創立25周年江戸川学園物語」

江戸川ウォークにて、ゼミ単位で河川敷を歩く

主要日程

2023年度 江戸川大学 主要日程

新型コロナウイルス感染症の影響などにより日程が変更になることがあります。

4月

3（月）
入学式

4（火）～11（火）
ガイダンス

12（水）
前期通常授業開始

17（月）～20（木）
教科書販売日

20（木）～26（水）
履修登録・
登録確認

25（火）
江戸川ウォーク

29（土・祝）
（昭和の日）

5月

3（水・祝）
（憲法記念日）

4（木・祝）
（みどりの日）

5（金・祝）
（こどもの日）

11（木）～12（金）
教科書販売日

14（日）
オープンキャンパス

6月

1（木）～7（水）
履修取消期間

11（日）
オープンキャンパス

7月

15（土）
オープンキャンパス

17（月・祝）
（海の日）

25（火）
前期通常授業終了

26（水）～31（月）
前期定期試験

8月

1（火）
前期定期試験

2（水）～10（木）
前期集中講義

5（土）
オープンキャンパス

11（金・祝）
（山の日）
夏期休業開始

11（金）～17（木）
事務局完全閉鎖

21（月）
前期追試験許可者発表

22（火）～23（水）
前期追試験

25（金）～26（土）
オープンキャンパス

9月

2（土）
入試相談会

9（土）
オープンキャンパス

14（木）
夏期休業終了

14（木）～20（水）
後期集中講義

18（月・祝）
（敬老の日）

21（木）
後期通常授業開始

23（土・祝）
（秋分の日）

27（水）
9月卒業式

30（土）
総合型選抜選考開始
～3月2日まで

10月

2（月）～6（金）
追加履修登録・
登録確認

9（月・祝）
（スポーツの日）

11月

1（水）
学園祭準備日
（授業なし）

2（木）～3（金・祝）
学園祭

3（金・祝）
入試相談会
（文化の日）

4（土）
学園祭片付日
（授業なし）

5（日）
創立記念日

6（月）～10（金）
履修取消期間

18（土）
学校推薦型選抜1期

23（木・祝）
（勤労感謝の日）

24（金）
授業調整日

12月

5（火）
授業調整日

9（土）
学校推薦型選抜2期
留学生入試1期

11（月）
卒業論文提出日

23（土）
年内通常授業最終日

25（月）～28（木）
後期集中講義

29（金）～31（日）
事務局完全閉鎖

1月

1（月・祝）
（元旦）

1（月）～4（木）
事務局完全閉鎖

5（金）
後期集中講義

6（土）
通常授業開始

8（月・祝）
（成人の日）

13（土）～14（日）
大学入学共通テスト

22（月）
後期通常授業終了

23（火）～29（月）
後期定期試験

31（水）
優秀論文発表会

2月

6（火）～7（水）
一般選抜1期

9（金）
後期追試験許可者発表

11（日・祝）
（建国記念の日）

12（月）
（振替休日）

13（火）～14（水）
後期追試験

22（木）
一般選抜2期
留学生入試2期

23（金・祝）
（天皇誕生日）

3月

1（金）
卒業生発表

5（火）
一般選抜3期

15（金）
卒業式

16（土）
卒業記念パーティ

20（水・祝）
（春分の日）

23（土）
オープンキャンパス

主要行事

第30回卒業式　卒業おめでとう!

令和4年度卒業式は、令和5年3月15日（水）に午前・午後の2部制で挙行し、オンラインでも配信しました。卒業生は対面かオンラインを各自希望により選択して参列、保護者は卒業生1名につき2名までの参列となりました。令和4年度3月卒業生は、社会学部人間心理学科82名、現代社会学科88名、経営社会学科111名、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科101名、情報文化学科82名、こどもコミュニケーション学科44名の計508名でした。

学年首席で学長賞に選ばれたのは、岡本猛さん（人間心理）。総代は、各学科首席の、沼﨑杏香さん（現代社会）、永野麻梨萌さん（経営社会）、田島寿真さん（マスコミ）、徳留加奈さん（情報文化）、佐藤唯香さん（こども）。成績・人物共に優秀で、各学科から優秀賞に選ばれたのは、野口陽平さん（人間心理）、板橋真緒さん（現代社会）、杉山さつきさん（経営社会）、野津めぐみさん（マスコミ）、宮山竜弥さん（情報文化）、吉波里峰さん（こども）。千葉県知事賞は海老島陽菜さん（マスコミ）。千葉県私立大学短期大学協会会長賞は浅見青空さん（現代社会）、全国保育士養成協議会会長賞は平沢真由さん（こども）。スポーツや文化活動において著しい活動があった学生から選ばれる特別賞には、大川颯斗さん（経営社会）。留学生で優秀な成績を修めた学生から選ばれる留学生特別賞には、ディヌシ ニワルタナ ジャヤチラカさん（情報文化）。指定強化部において著しい活動があった学生から選ばれる優秀アスリート賞には、中谷まひるさん（経営社会）。よく努力し、優秀な成績を修め、本学の名声を高めた学生から選ばれる記念品贈呈には、成田沙耶香さん（人間心理）、坂巻貴飛さん（情報文化）。答辞には、浜口竜さん（経営社会）、中村渚咲さん（マスコミ）。卒業生代表のプロフィールは式次第におさめられていますが、卒業生一人ひとりを見守ってきた先生方の卒業生に向けた餞の言葉となっています。

会場の第二体育館の様子

第34回入学式　入学おめでとう!

令和5年度入学式は、令和5年4月3日（月）の午前11時から人間心理学科、経営社会学科、こどもコミュニケーション学科、午後2時から現代社会学科、マス・コミュニケーション学科、情報文化学科が対面で式典を挙行し、オンラインでも配信を行いました。新入生は対面かオンラインを各自希望により選択して参列、保護者は学生1名につき2名まで参列可能となりました。

一年次生は社会学部人間心理学科128名、現代社会学科86名、経営社会学科136名、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科118名、情報文化学科96名、こどもコミュニケーション学科54名の計618名、三年次編入生は社会学部現代社会学科5名、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科1名の入学が許可されました。

新入生宣誓は、午前が佐藤文音さん（経営社会）、午後が野口拓玖さん（現代社会）でした。

今年度より各種ガイダンスや授業は対面での実施を基本とすることとなりました。コロナ禍での制限がなくなりつつあるなか、新入生たちは新しい学生生活のスタートを切りました。

今年度から保護者も参列可能となりました

佐藤文音さん

人事

2023年度、新たに本学の教職員としてお迎えした10名をご紹介します。

新任教員の紹介

館林 牧子
タテバヤシ　マキコ

メディアコミュニケーション学部
マス・コミュニケーション学科・教授

出身地：千葉県
最終出身校：京都大学理学部物理学科
前職：読売新聞クロスメディア部専門委員
主要担当科目：新聞論Ⅰ・Ⅱ、メディアリテラシー、ジャーナリズム論

読売新聞に記者として35年勤めていました。金沢支局を振り出しに、科学部で天変地異、宇宙開発、原子力、臓器移植などを担当し、ワシントン支局で遭遇した同時テロでは司法省をカバーしました。その後、シリコンバレー駐在を経て帰国し、医療部で生殖医療や精神科医療の問題点や、超高齢社会での医療・介護の見通しについて取材をしてきました。

医療部長、論説委員としてコロナ担を終えた後、こちらに来る直前には新しい新聞社のビジネスを考える部署で、主にウェブサイトの運営もしてきました。経験を踏まえ、若い人たちに役立つ新聞論を伝えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

中島 健夫
ナカジマ　タケオ

メディアコミュニケーション学部
マス・コミュニケーション学科・教授

出身地：神奈川県
最終出身校：法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修了、修士（社会学）
前職：NHK国際放送局 World News部
主要担当科目：国際報道論Ⅰ・Ⅱ、ドキュメンタリー論、災害報道論

NHKで30年余り記者として主にスポーツ報道や国際報道に従事しました。転勤の多い職場で札幌を振り出しにサハリン、東京、アメリカ、オーストラリア、大阪と国内外の各地を転々としてきました。

行く先々で様々な出会いとご縁がありました。そのすべてが取材の糧となり、また良い思い出になっています。

大学は学生にとって新しい学びと友との出会いの場であると思います。その出会いが素晴らしいものになるように、教員として少しでもサポートすることができればと考えております。

今回江戸川大学に教員としてご採用いただいたこと、大変光栄に思います。まだまだ大学教員として学ぶことが多い毎日ですが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

今村 麻子
イマムラ　アサコ

メディアコミュニケーション学部
こどもコミュニケーション学科・准教授

出身地：神奈川県
最終出身校：日本女子大学大学院人間社会研究科教育学専攻博士課程前期修了、修士（教育学）
前職：宇都宮共和大学子ども生活学部子ども生活学科、准教授
主要担当科目：教育学概論（初等）、保育原理、教育・保育課程論

教育社会学の切り口から幼児教育・保育を研究しております。

「かくれたカリキュラム」や、教室の中で一方通行で与えられるもの以外の教育に興味を持ってきました。次代を育む保育の仕事は、これからますます大切なものになりますので、幼稚園、保育園の実践の場にいた経験も活かし、学生の皆さんにその魅力と責任を伝えてまいりたいと思います。

これから江戸川大学や地域に貢献するべく精一杯の努力をしていく所存です。

また、様々なキャリアやバックグラウンドをお持ちの先生方に学び、自身もまだ成長発達していけるのではないかと期待しています。何卒、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

中原　真祐子
ナカハラ　マユコ

基礎・教養教育センター・講師

出身地：千葉県
最終出身校：東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻倫理学専門分野博士課程修了、博士（文学）
前職：上智大学　基盤教育センター、特任助教
主要担当科目：アカデミック・スキル演習Ⅰ・Ⅱ、哲学概論

哲学と倫理学を専門にしており、19～20世紀に活躍したフランスの哲学者、アンリ・ベルクソンの思想を研究してきました。とくに人間の「心」がどう捉えられてきたかに関心をもって研究しています。

大学教員としては、本学でのアカデミック・スキル演習の非常勤講師を皮切りに、高崎経済大学、上智大学で助教として初年次教育に関わってきました。人と話すのが好きな性分で、初々しい1年生と毎年出会える本当に楽しい仕事だと思っています。他大学での経験も生かしつつ、江戸川大学の初年次教育に貢献してまいる所存です。

様々な研究分野の先生方とお話しすることを楽しみにしています。学内で見かけましたらどうぞお気軽にお声がけください！

上西 秀和
カミニシ　ヒデカズ

メディアコミュニケーション学部
情報文化学科・助教

出身地：鹿児島県
最終出身校：東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻博士課程単位取得退学、博士（工学）
前職：獨協医科大学情報基盤センター、助教
主要担当科目：プログラミングⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、情報セキュリティ

大学学部では情報工学科を卒業し、自身が教職課程を受講する中でプログラミング言語教育や数学教育などに興味を持ちました。その後、大学院と並行して非常勤講師としてプログラミング言語教育に携わりました。

前職では栃木県にある医科大学の情報基盤センター所属の教員として、医学教育の情報化の推進や各種システム運用、PC教室のアクティブラーニング対応化、情報リテラシー教育や学内の情報セキュリティへの啓蒙活動などを行ってまいりました。本学では、プログラミングの授業を中心に担当することとなりました。学生がコンピューターとプログラミング言語をより深く理解できるよう伝えてまいりたいと思います。皆様ご指導を賜りますと幸いです。よろしくお願いいたします。

新任職員の紹介

大澤　富美恵
オオサワ　フミエ

事務局学務部教務課

出身地：茨城県
最終出身校：国際短期大学
前職：学校法人江戸川学園江戸川大学学務部教務課、非常勤職員

　この度、専任職員として教務課で勤めさせていただくことになりました。より多くのことを学び、成長する機会をいただけたこと大変嬉しく思っております。
　私は 2009 年より本学に入職いたしました。入職してから派遣社員、非常勤職員として学術情報課、教務課で窓口業務や学生支援等経験を積んでまいりました。今までの経験を活かし、今後は専任職員としてより一層貢献できるよう、精進してまいります。
　また、本学の教職員、学生の皆様に対し、より良い教育環境を提供できるよう、皆様と協力しながら努めてまいります。まだまだ至らない点が多々あるかと思いますが、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

大野　和哉
オオノ　カズヤ

事務局学務部就職課

出身地：茨城県
最終出身校：大東文化大学経済学部社会経済学科
前職：学校法人駿河台学園駿台予備学校教務課、課長補佐

　前職では 15 年にわたって大学受験予備校にて高校生や浪人生の学習面・生活面でのフォローを仕事としておりました。過去に 2000 名を超える学生と関わってきた中で感じたのは、「同じ生徒は二人といない」ということです。一人ひとり感じること考えることも違えば、成長の速度も異なります。少し気を抜くと経験から先入観を持ってしまいがちですが、話を聞き個人に寄り添わなければ、目の前にいる学生のための真の教育はできないものと存じます。この度ご縁があり 4 月より就職課業務に携わらせていただいております。これまでの学生指導経験を生かしながら、学園に貢献できるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

大濵　幸子
オオハマ　ユキコ

事務局総務部入学課

出身地：千葉県
最終出身校：お茶の水外語学院総合英語科
前職：学校法人江戸川学園江戸川大学学務部教務課、非常勤職員

　約 10 年間教務課にて、学生の履修相談や先生方の授業運営等のサポート業務に従事してまいりました。この度、専任職員として入学課に配属になり、学生募集のための高校訪問や進路ガイダンス等に参加をして、新しいことを吸収しながら刺激的な毎日を送っております。
　これまでに様々な職種や海外生活等を経験するなかで、グローバルな視点で物事を考えて行動することやコミュニケーションの重要性を学びました。今後はこの経験を存分に活かして江戸川大学の素晴らしさをより多くの方々に向けて発信し、皆様の信頼を得ながら大学の発展に貢献してまいる所存です。
　「明るく・楽しく・熱意を持って仕事をする」ことが私のモットーですので、何かお役に立てることがありましたら、いつでもお声がけいただければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

岡本 大
オカモト　ダイ

事務局総務部広報課

出身地：群馬県
最終出身校：筑波大学情報学群知識情報・図書館学類

　大学では情報と図書館に関する知識について幅広く学び、サークル活動ではイラストの制作を行っていました。しかし、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた世代でもあり、オンライン形式の生活が学生生活の大半を占めていました。学びはあったものの、心残りのある学生生活でした。
　就職活動をしていくうちに江戸川大学とのご縁があり、自分のように心残りのある学生生活を送ってほしくないという思いから大学職員となる道を選びました。
　江戸川大学の学生の皆さんが学業だけでなく、課外活動等にも参加し、充実した学生生活を送れるように精一杯努力していきたいと思います。至らない点もあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

松山　和樹
マツヤマ　カズキ

事務局学務部学生課

出身地：岐阜県
最終出身校：中京大学法学部法律学科

　大学では労働法の先生のゼミに所属し、塾講師のアルバイトにも取り組みました。コロナ禍ということもあり自由が制約された中での学生生活を送りましたが、様々な経験ができた 4 年間でした。
　私自身学生時代には、ゼミでの活動や就職活動において何度も大学職員の方々にお世話になりました。これらの経験から、私自身も「学生や教員とより近い距離で学生生活や研究活動のサポートをしたい」という思いがありました。そのため、私の考えに近いこの江戸川大学に入職することを決めました。まだまだ至らぬ点も多々あると存じますが、皆さまからのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

新規役職者の紹介

こどもコミュニケーション学科長

守屋 志保 教授

　本年度より、こどもコミュニケーション学科長を拝命しました守屋です。コロナ禍において、実習や体験を重視している本学科では、困難な状況に何度も直面しましたが、教職員の皆様の多大なご尽力で乗り切ってこられたと思っております。私自身は保育の専門ではありませんが、スポーツを専門にしていますので、こども教育のスペシャリストが揃っている本学科でチームワークを大切にしながら、学生に最善の教育を提供できるよう努力していきたいと考えております。不安ではありますが、皆様にご指導いただきながら頑張ります。よろしくお願いいたします。

基礎・教養教育センター長

岡田 大助 教授

　基礎・教養教育センターでは、教養教育、資格教育、キャリア教育を大きな柱としてカリキュラム運営を行っています。まずは、キャリアセンターと協力してキャリア教育を充実させつつ、国際化と情報化という本学の方針を踏まえ、担当教員とともに、英語、情報教育に継続して力を入れてゆきます。加えて、教養教育においては、学生さんたちが論理の基本的な力を身に付けてあらゆる物事を批判的に吟味し、ありのままの事実を見抜く力を養いたいと思います。さらに、校歌に記された本学の伝統的な教育理念・「古を今に学ぶ」すなわち古典に現代の問題を解決するための良質な知恵を学び、心を養い育てる本来の教養教育に力を入れてゆく所存です。

学生部長

中村 真 教授

　この度、学生部長を拝命いたしました。今年度は、コロナ禍が終息しつつある状況の中で学生生活をコロナ以前の状態に戻していくことが学生部の取り組みの柱になろうかと存じます。この 3 年間、中止やオンライン開催、または、規模を縮小しての開催を余儀なくされてきた江戸川ウォーク、学園祭、卒業記念パーティなどを以前と同じように開催することを通して学生たちが充実したキャンパスライフを過ごせるよう支援に努める所存です。教職員の皆様におかれましては、これらの行事にご理解ご協力を賜りますとともに、行事への参加を通じた学生支援にお力添え下さいますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

人事

新規役職者の紹介

障害学生支援室長

村上 涼 准教授

この度、障害学生支援室長を拝命いたしました村上です。本学では、2023 年度より障害学生支援室を設置し、合理的配慮の提供を求める学生に、大学組織として配慮を提供していくことになりました。遅くとも 2024 年度には、国公立大学だけでなく私立大学においても、合理的配慮の提供が法的義務となり、コンプライアンスの面において、責任が伴うようになってまいります。そのため、今年度は支援室の開室を整え、学生への配慮の提供がスムーズに行える体制づくりを目指していきます。その過程において、教職員の皆さまに、ご協力をお願いすることになるかと存じます。至らない点も多々あるかと思いますが、精進して努める所存でございます。どうぞご指導ならびにお力添えを賜りますよう、よろしくお願い致します。

キャリアセンター長

井上 一郎 教授

この度、キャリアセンター長を拝命いたしました。キャリアセンターでは、求人情報の紹介、あっせんから、就職活動に関する相談や指導、資格取得の支援や就職ガイダンスの実施・運営など、多岐にわたる支援活動を総合的に実施しています。具体的には 1、2 年生向けのエドリルベーシック、3 年生向けには SPI、玉手箱などの試験対策（e ラーニング）を無料でできるエドリルアドバンス、そして 4 年生にはより具体的な個別相談も行っています。

とはいえ、実際にはゼミ等での就活生向けのアドバイスや相談対応などが非常に重要になります。教職員のみなさま方のご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

総合情報図書館長

杉山 敏啓 教授

大学教員の活動として教育と研究はクルマの両輪に例えられることがあります。研究の成果が教育の品質向上につながることは正に好循環といえます。この両輪の活動支援は、大学図書館の重要な役割です。また、図書館は大学の顔と言われるように、蔵書や設備、活動内容などは本学が目指す姿としてふさわしいものであることが期待されます。私はマネジメント実務の経験がある大学研究者です。本学の総合情報図書館が培ってきた長年の蓄積を大切にしながら、デジタル化をはじめ変化する時代に即した新しい目線も取り入れて、図書館が教育研究環境の充実に貢献できるように力を合わせて精進して参りたいと思います。皆様方のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

教職課程センター長

宮崎 孝治 教授

今年度、教職課程センター長を拝命しました宮崎です。前センター長の高橋先生の運営方針を踏襲し、一人でも多くの教員を輩出することを目指したいと思っています。コロナ蔓延の期間は模擬授業合宿、教材開発フィールドワーク等が開催できず、十全な学生支援とならなかったことに忸怩たる思いが残っています。そのような環境においても、学生は教員採用試験に合格し、また、教育系の大学院（上越教育大学大学院、筑波大学大学院等）へ進学しています。この結果は、教職課程所属の教員のみならず、学科の先生方や職員の方々の協力があっての賜物だと確信しています。今後も多くのご協力をいただきながら、学生の教職への思いを支援していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

睡眠研究所所長

浅岡　章一 教授

本研究所は「眠りの不思議を解き明かし、眠りをとおして社会に貢献する」という基本方針を掲げ、2012 年に発足しました。それからの 11 年間、初代所長の高澤則美先生、先代所長の福田一彦先生のもと、研究知見の蓄積とともに研究成果の社会還元にも力を入れ活動してまいりました。その結果、スタッフの数も倍近くに増え、研究環境も整備されてきました。研究所のより一層の発展を目指し、所長就任に際し「外部により開かれた研究所とすること」、「研究レベルの一層の向上を図ること」、「計画的・効率的な研究所運営を実現すること」という 3 つの目標を掲げました。この目標を実現すべく努力してまいります。

退職者

【教員退職者（2023 年 3 月 31 日付）】（3人）
基礎・教養教育センター 教授　荒谷大輔
経営社会学科 特任教授　古城庸夫
こどもコミュニケーション学科 特任教授　浅川陽子

【職員退職者（2023 年 3 月 31 日付）】（3人）
法人事務局 総務部長　桑田知明
学術情報課 課長　坂井卓行
こどもコミュニケーション実習センター シニアマネージャー　鈴木忍

再雇用者

【2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日】（1人）　メディアコミュニケーション学部 教授　新井正彦

名誉教授称号の授与

今年度名誉教授を授与されたのは、荒谷大輔先生、古城庸夫先生の２名です。

名誉教授の称号は、江戸川大学の教授として退職した者で、本学に教授として 10 年以上勤務し、教育上又は学術上特に功績があった者や、年数に達しないが、教育上又は学術上の功績が特に顕著であった者、本学の運営に関し功績が特に顕著であった者に授与するものです。

学内行事

江戸川ウォーク

親睦を深める1日・4年ぶりの開催

令和5年4月25日（火）に第21回目の江戸川ウォークが実施されました。新型コロナウイルスの影響により4年ぶりとなった江戸川ウォークは、天候にも恵まれ、全学部・学科の新入生、教職員など合わせて約700名が参加しました。10時30分、東武アーバンパークライン川間駅近くの公園に集合し、開会式を行いました。その後、江戸川堤防のサイクリングロードを経由して清水公園までの約5キロの道のりを歩きました。マスク着用が緩和された影響もあり、明るい笑顔を見せる学生たちもいました。

12時過ぎに清水公園のバーベキュー場に到着した後は、基礎ゼミごとに分かれ、炉を囲みながらバーベキューを行いました。うちわで扇いで火おこしを手伝ったり、交代して肉や野菜を焼くなど、共同作業を通して学生たちの会話も弾み、苦労しながらもにぎやかで楽しい時間を過ごしました。新入生同士だけでなく、教職員との交流もでき、親睦を深められた良い機会になりました。

天候にも恵まれました

みんなで和気あいあい

河川敷をゼミ単位で歩きました

親睦を深めました

協力してBBQ

小口彦太学長の挨拶

新年度ガイダンス

新入生ガイダンスは、対面とオンデマンド配信を織り交ぜて、4月1日（土）の貸与ノートパソコン講習会からスタートし、学部ガイダンス、海外研修ガイダンス、学科別ガイダンス、資格科目ガイダンスなどが行われました。2年生以上のガイダンスは、学科別ガイダンス、英語履修説明会などが行われました。4月7日（金）と10日（月）には、各学科の学生リーダーが指導教員の岡田大助教授、廣田有里教授、林香織教授と共に、対面の時間割作成相談会を開催し、新入生の疑問や質問に対応しました。学生リーダーは、4月12日（水）から26日（水）まで、B棟1階メモリアルホール前に履修相談室を設置し、履修登録の仕方や他学科履修の方法が分からないなど様々な質問に対応しました。新入留学生を対象としたガイダンスは、3月22日（水）に対面で行われました。午前中は、国際交流センターの教職員紹介、学生生活の諸注意、キャリアセンターや学生課からのお知らせ、日本語科目や学科の専門科目の履修登録方法の説明と時間割作成を行いました。午後は、実用日本語検定（J.TEST）を実施した後、在学留学生との交流会を行いました。

履修のアドバイスを受けました

学生リーダーが丁寧に教えました

教育活動

マスコミ学科・本多悟ゼミがゼミ誌『SEVEN』を発行

マス・コミュニケーション学科の本多悟ゼミ（ジャーナリズムコース）が、1月24日（火）にゼミ誌『SEVEN』を発行しました。

本多ゼミでは、出版コンテンツ制作の基本となる編集知識を習得し、分析・研究することで一生使える「編集力」を身に付けます。その研究成果として、企画、取材、撮影、レイアウト、執筆などすべての制作工程を学生が主体となり雑誌制作を行っています。

2022年度3年次のゼミ生7名（石田芽衣さん、伊藤紫雲さん、戸塚若葉さん、高城和未さん、髙槁奏大さん、池田紅花さん、増田彩夏さん）は、大学生が今いちばん知りたいことを7つのトピックスにまとめ、『SEVEN』と題してゼミ誌を発行しました。

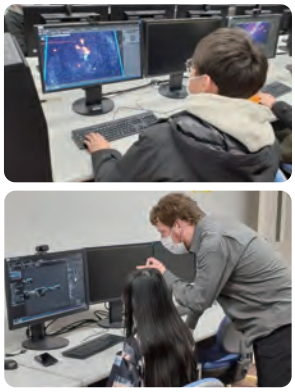
本多ゼミ発行誌

情報文化学科が特別講義「3Dゲーム制作講座」を実施

情報文化学科は2月21日（火）から3日間、デジタルハリウッド大学よりマイケル ブランセ准教授を特別講師としてお招きし、ゲーム制作に興味がある学生を対象に「3Dゲーム制作講座」を実施しました。

春休み期間中に実施した本特別講義では、Unreal Engine5という環境を利用して3Dリアルタイムゲームの作り方を学びます。ブランセ先生の熱心でフレンドリーな指導を受け、ゲーム作りが初めての学生も国際コミュニケーションを体験しながら、ゲーム制作の奥深い世界を追求することができました。

参加学生からは「この技術が他のものにも応用できることがわかった」「これから自分で考えた新しいゲームを開発していきたい」など、ゲーム制作を通した深い学びについての感想が述べられました。


指導を受けながら、ゲームを完成させました

学生が制作するラジオ番組『江戸川タイムズ』でトルコシリア地震について放送

江戸川大学マスコミ自主講座では、アナウンサーやリポーター、放送作家などをめざす学生が参加して「アナウンス補講」が行われています。現役アナウンサーである日下純先生のご指導のもと、自分たちで制作した番組を月1回、東京葛飾区のコミュニティFM「かつしかFM」で『江戸川タイムズ』として生放送しています。

3月8日（水）の放送では、福島県出身で東日本大震災の被災経験がある1年生の卯尾さくらさん（マス・コミュニケーション学科）が、トルコシリア地震から1か月という特集を放送しました。

トルコ在住のオルムシュ由香さんに現地の最新情報をインタビュー。まだ行方不明者が多数いて今後も犠牲者数が増えそうなことや、地震直後はメディアが政府の規制によってあまり詳細が報じられなかったため、多くの人が動画投稿サイトにジャーナリストが投稿する動画で情報を得ていたことなどが語られました。またトルコでは防災教育が充実しはじめたのは最近のことで同じ地震国でも日本との違いが大きいということもわかりました。これからも学生の視点を生かした興味深い番組を放送していきます。

日下純先生と学生達

こどもコミュニケーション学科が公務員保育士採用模擬試験を実施

こどもコミュニケーション学科では、公務員保育士試験対策として、学内で模試を実施しています。2023年度は4月25日（火）に行われ、29名の学生が模試にチャレンジしました。

公務員保育士の採用選考では、教養と専門の筆記試験がほぼ必須です。そこで、こどもコミュニケーション学科では、まずは模擬試験を受けてもらって対策をすすめるきっかけにしてほしい、という意図で学内で模試を実施しています。このため、学科が模試受験料を補助し、学生は500円で受験が可能です。すでに対策を進めていて、実力を測るために受ける学生もいます。幼稚園教諭専門試験模試を追加で受けることもできます。

模試にチャレンジしました

研究活動

現代社会学科・野上玲子講師が日本体育・スポーツ・健康学会主催「第3回若手の会セミナー」で講演

社会学部現代社会学科・野上玲子講師が3月19日（日）、日本体育・スポーツ・健康学会が主催する第3回若手の会セミナー「アーリーキャリアの過ごし方と必要なサポート―博論・就職・テニュア」で講演を行いました。

本セミナーは、若手研究者への支援の重要性について、学会や関連組織に提言するための情報を得ることを目指して開催されました。野上講師は、「仕事・子育て・博論」を同時に経験してきたなかでの困難や、女性が子育てしながらキャリアを積むことへの必要な支援について述べました。

現代社会学科・中島慶二教授監修の『アウトドア六法』が出版

社会学部現代社会学科の中島慶二教授（江戸川大学国立公園研究所所長）が監修した『アウトドア六法 正しく自然を楽しみ、守るための法律』（山と溪谷社）が3月14日（火）に出版されました。

近年のアウトドアブームにより、登山・キャンプ・釣り・SUPなどをはじめる人が増えていますが、マナー・ルールなどをしっかりと把握しないまま、知らないうちに違法行為を行っていたというケースも少なくありません。

本書は、アウトドアに関する複雑に絡み合った法律を、「山」「川・湖沼」「海」「都市近郊・公園」といった場所ごとに章分けして解説した上で、各章の中で比較的メジャーなアクティビティについては、それぞれの注意点やQ&Aなどを設置し、わかりやすく解説しています。

経営社会学科・杉山敏啓教授が公正取引委員会競争政策研究センターのCPRCセミナーで講演

社会学部経営社会学科の杉山敏啓教授が2月3日（金）、公正取引委員会競争政策研究センターのCPRCセミナーで「銀行業の競争度と地域金融への影響」と題して講演を行いました。

CPRCセミナーは公正取引委員会競争政策研究センターが将来の研究課題の発掘等に資するために、競争政策上の課題について有識者による講演を定例開催しているものです。

杉山教授は著書『銀行業の競争度―地域金融への影響』（日本評論社2021）で議論した内容を要約した上で、銀行業の競争度合いを、店舗内店舗（ブランチ・イン・ブランチ）を補正した最近の実店舗数データによる計測結果で提示しながら、地域金融の寡占化が進むことによる借り手等利用者および金融機関経営への影響について報告しました。

経営社会学科・関根直樹教授が『日経クロストレンド』に寄稿

社会学部経営社会学科の関根直樹教授が、音楽フェスティバルに関する記事を『日経クロストレンド』に寄稿しました。

関根教授は「日本とアジアの音楽を双方に発信　沖縄発音楽フェス」と題した記事で、2023年2月18日（土）と19日（日）の2日間にわたって開催された新しいイベント「Music Lane Festival Okinawa」について解説しています。

先行する音楽フェス「東京国際ミュージック・マーケット」（TIMM）との比較からの特性の指摘、自身が2日間フェスに実際に参加してインパクトを受けたタイ、台湾、沖縄のアーティストの紹介、イベント創設者の野田隆司氏のコメントなど、沖縄発の新しい音楽フェスの魅力と将来性を臨場感たっぷりに伝えています。

情報文化学科・玉田和恵教授が「スマホ時代の子育てセミナー」で講演

メディアコミュニケーション学部情報文化学科の玉田和恵教授が3月4日（土）、広島市東区地域福祉センターで開催された「スマホ時代の子育てセミナー」で講演を行い、オンラインと会場で約100名が参加しました。

安心・安全な青少年のインターネット利用環境についての理解を深めることを目的に、総務省中国総合通信局、広島県、広島市教育委員会、スマートフォン時代に対応した青少年のインターネット利用に関する中国連絡会及び広島市電子メディア協議会との共催で、教育関係者、保護者等、青少年の指導的立場にある方々を対象として開催されました。

玉田教授は講演で、GIGAスクール時代を迎え「なぜ、今、情報モラルが重要か」「情報モラル問題解決力の育成」「新たなる課題への対応」についてお話ししました。

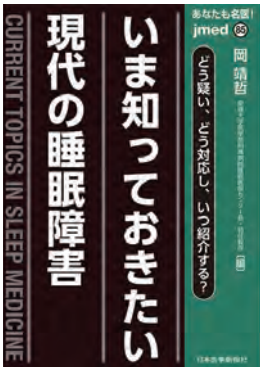
スマホ時代の子育てセミナー

研究活動

人間心理学科・山本隆一郎教授が分担執筆した睡眠障害に関するムック本が出版

社会学部人間心理学科・山本隆一郎教授が分担執筆した『jmedmook85 あなたも名医！ いま知っておきたい現代の睡眠障害』が4月25日（火）に出版されました。

山本隆一郎教授は、「3章 医療者が知っておくべき睡眠のトピックス 8.新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と睡眠」を執筆しています。本節では、COVID-19に伴う睡眠の問題や、新型コロナワクチンの有害事象や有効性と睡眠との関連、COVID-19の流行に伴う人々の睡眠の変化と睡眠問題対策について解説をしています。



人間心理学科・石橋美香子講師らの共著論文が『Scientific Reports』に掲載

社会学部人間心理学科・石橋美香子講師らの共著論文が4月24日（月）、自然科学系全般を扱う査読付き学術誌「Scientific Reports」（nature research）に掲載されました。

本論文は、子どもが就寝時に毛布やぬいぐるみを用いる要因や睡眠問題との関連を検討した内容となっています。

研究結果では、睡眠時にぬいぐるみを用いている子どもは、不安になりやすい傾向があること、ほとんどの子どもは、養育者やきょうだいと一緒に寝ているときであっても、就寝時にぬいぐるみを用いていること、ぬいぐるみの使用と睡眠問題との間に特別な関連性は示されなかったことがわかりました。これらの結果から、子どもがぬいぐるみを睡眠時に用いるのは、養育者の不在によって引き起こされる不安に対抗するためであるのかもしれないと考えています。

経営社会学科・広岡勲教授が松井秀喜氏とともに特別講演

社会学部経営社会学科・広岡勲教授が、巨人、ヤンキースなどで活躍した松井秀喜氏とともに、都内のホテルで開催された「第123回日本外科学会定期学術集会」で特別講演を行いました。

「人にない武器をどう身につけるのか」というテーマで行われた講演では、松井秀喜氏のメジャーリーグ挑戦を共に歩み支えた広岡勲教授が聞き手を務めました。松井氏は、高校時代、巨人時代の話からメジャー挑戦、そして2009年にワールドシリーズでMVPになるなど、頂点に立つまでのエピソードを披露しました。話題はエンゼルス・大谷翔平選手にも及びました。大盛況となった講演の様子は、マスコミ各社で報道されました。

えどがわ・こどもサロン開催

こどもコミュニケーション研究所が3月8日（水）、「えどがわ・こどもサロン」をD棟の多目的室で10時から12時まで開催しました。流山市内の第一子のお子様（0歳から1歳位まで）と保護者を対象にした親子の集いの場で、9組の赤ちゃんとお母さまが参加しました。

榊原貴子氏によるリズムでふれあって遊ぶ「親子リトミック」から始まり、たっぷりとコミュニケーションをとって関わりあう「自由遊び」のほか、こどもコミュニケーション学科の学生が読み聞かせを行いました。

リトミックでは、お母さまとのスキンシップに思わず笑い声をあげたり、音楽に合わせて身体を勢いよく動かしてみたり、お隣の赤ちゃんと一緒にずりばいをしてみたりという元気で愛らしい赤ちゃんの姿がみられました。参加したお母さまからは「電子ピアノの演奏に合わせて親子のスキンシップが楽しめました」「初めてリトミックに参加しましたが、楽しかったです」等のお声をいただきました。

赤ちゃんとお母さまの笑顔を見ることができ、子育て支援へのやりがいを感じた1日でした。

えどがわ・こどもサロン

演劇愛好会「居残りの会」が「名前のない演劇祭 黄」で公演

演劇愛好会「居残りの会」が「名前のない演劇祭 黄」で初めての外部公演を行いました。「居残りの会」は、かって講義『人間学総合基礎演習』で演劇を公演していた一部の学生が結束し発足させたサークル「演劇愛好会」の愛称です。

「名前のない演劇祭 黄」は、東京都の北池袋・中板橋にて開催した38団体による14日間の演劇祭です。同会は3月28日（火）15時から、演目「幸福総量保存則」を披露しました。

あらすじは次の通りです。「幸福とは何だろうか？幸福はいつ訪れるのだろうか？解なき問いに悩む、不運な2人の女子大生。『人生で経験する幸福の総量は必ず保存される』という愚説が、2人の男と出会うことで、徐々に現実味を帯びていく…」

社会・地域との連携・交流活動

こどもコミュニケーション研究所の研究員が千葉県生涯大学校の講師を担当

こどもコミュニケーション研究所の研究員が、令和４年度千葉県生涯大学校東葛飾学園健康・生活学部の講師を担当しました。

２０２２年は浅川陽子特任教授が「こどもとの関わり絵本学」（６月９日、８月４日）、大塚紫乃准教授が「子どもの心と成長」（９月８日、９月15日）、２０２３年は猶原和子特任教授が「昔遊びを子どもに伝える」（１月８日、２月１日）、村上涼准教授が「昔と今の子育て事情」（３月６日、３月13日）という演目で講義しました。

受講者の皆さんからは、「地域で子育てをするための方法を考える機会になった」「自分の世代の子育てを、次世代に合った形でつないでいくことを考えていきたい」等の感想が寄せられました。受講者の皆さんが生き生きとした表情で学び楽しむ姿がみられ、活力あふれる学びの場となりました。

講師を務める猶原和子特任教授

情報教育研究所が私情協「情報活用教育コンソーシアム第４回情報交換会」をオンライン開催

私立大学情報教育協会では、大学卒業時に全ての学生が修得しておくべき学士力として「社会で求められる情報活用能力育成のガイドライン」を提案しています。

本ガイドラインについては、私情協の委託を受け、江戸川大学情報教育研究所が中心となって教育モデル等の提案を行い、「情報活用教育コンソーシアム」の運営も行っています。

３月24日（金）には、「情報活用教育コンソーシアム第４回情報交換会」をオンラインで開催しました。高等学校で２０２２年度より開始され、２０２５年度より共通テストへの導入が予定されている「情報Ⅰ」について、「文部科学省が掲げている学習指導要領の目標」、「高等学校現場の情報担当教員の現状」、「私立大学教員として何を準備するべきか」の３つをテーマに、白熱したディスカッションを行いました。

江戸川大学情報教育研究所が「春のサイエンスセミナー２０２３」をオンライン開催

江戸川大学情報教育研究所が３月17日（金）、「春のサイエンスセミナー２０２３」をオンラインで開催しました。第１部は高校生による研究発表、第２部は「STEM 教育と『理数探究』～高大接続と企業との連携の可能性～」について、教員による研究ディスカッションを行いました。日頃の研究成果を共有するとともに、今後探究活動をどう進めていくかについて白熱した議論が行われました。

流山グリーンフェスティバル

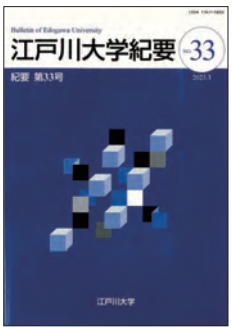
５月４日（木）のみどりの日に、千葉県流山市の花と緑の祭典『流山グリーンフェスティバル２０２３』が、流山おおたかの森駅南口都市広場で開催されました。情報文化学科の廣田有里ゼミが花絵のデザインを企画・担当しました。現代社会学科の土屋薫ゼミと地域のボランティアの方々が一緒に３０００個以上の花と野菜の苗を並べ、会場を彩る巨大花絵を作り上げました。また、映像放送研究部が小久保利己教授の指導のもと、当日の様子を撮影し、フェスティバルの賑わいを記録しました。さらに、マス・コミュニケーション学科の学生で組織する学生広告代理店「エド・アド」（社長：武居楓さん、顧問：井上一郎教授）がステップアートを制作。そのデザインをもとに会場で配布されたチラシと見比べて行う、来場者参加型の間違い探しゲームを実施しました。他にもスタンプラリーやカメラ撮影の企画、文房具などのプレゼントも行い、多くの親子連れや小中学生が参加しました。

学生がデザインしたステップアート

大勢の来場者でにぎわいました

紀要等の発行

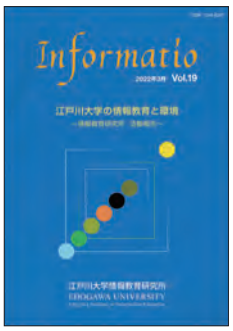
江戸川大学紀要　第33号



3月15日（水）に『江戸川大学紀要第33号』が発刊されました。今号には35本の論文・原稿が掲載されています。ページ数も過去最高の482ページとなっています。本学教員の研究活動が非常に活発に行われている証だと考えられます。

2学部6学科という多様な研究分野を有する本学の特色がよく出ており、様々な研究領域の水準の高い研究成果を楽しむことができます。昨年度より掲載原稿の種別も増えており、さらに研究成果発表の裾野が広がることを期待したいと思います。

情報教育研究所紀要 Informatio 第20号



2022年度に行われた2回の情報教育研究会「問題解決力を育成する情報科の授業をどう実現するか」「教師教育における探究活動の教材開発と実践」、2回のサイエンスセミナー「科学的な探究活動～対面だけでいいの？オンラインだけでいいの？」「STEM教育と『理数探究』～高大接続と企業との連携の可能性～」での研究発表が掲載されています。

その他、学士力としての問題解決力の育成、情報モラル・STEM教育・データサイエンスに関する研究論文が掲載されています。

江戸川大学国立公園研究所年次報告 NP FORUM　第7号

本学客員教授油井正昭先生の巻頭の言葉から始まり、中島慶二研究所長、研究所スタッフによる国内外の国立公園に関する論文、研究報告、雑誌掲載記事等を掲載しています。

2022年3月に実施したオンラインシンポジウム「クマと人のつきあい方をいま考えよう～あつれきを最小化するための対策とは～」は全国から150名を超える参加者があり、大変盛況でした。当日の様子もシンポジウム記録として掲載しています。

博物館学芸員資格取得養成課程年報 第14号

本学の博物館学芸員資格取得養成課程では、学生の博物館と関わる時間を確保するため、また博物館の実際の活動を学習するために、博物館見学や博物館での実務実習に加え、企画から展示広報にいたるまでの学芸員としての活動を体験できるように学園祭で企画展示を課しています。本年度は新型コロナウイルス感染症の関係で実務実習のみおこないました。

第14号はこのような状況の中で実施できた実務実習を学生が作成した報告書と指導教員の研究ノートという形で本邦初公開の島木赤彦の平福百穂宛大正7年1月12日付手紙の翻刻を成果としてまとめました。

図書館報エウレカ　第50号

昨年度も江戸川大学総合情報図書館においては新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも徐々に制限を解除しながら図書館サービスに努めてまいりました。今号では、2019年から4年間勤められた福田一彦図書館長の退任のご挨拶や、図書館多読賞や企画展示等の図書館お役立ち情報、図書館スタッフからおすすめの本・映画など様々なお知らせを掲載しています。2023年度はぜひ、図書館へ足を運び、本に触れて少しでも明るい気分に浸ってみてはいかがですか。

研究レポート

REPORT

科学研究費補助金（学術研究助成基金助成金）が交付された研究を紹介します。

研究課題「保育への情熱が保育者の精神的健康及び保育の質に与える影響」

（2023年度学術研究助成基金助成金　基盤研究（C）に採択）

メディアコミュニケーション学部
こどもコミュニケーション学科
蛯原正貴　講師

仕事や学業、スポーツ等の充実において欠かせない要素の一つに「情熱」が挙げられます。情熱（passion）とは、「個人が愛着を持ちながら多くの時間とエネルギーを費やし、自身にとって重要だと位置付けている活動に対する強い意向や欲求」とされている概念です（Vallerand et al.,2003）。概念としての説明を聞くと少しややこしく感じるかもしれませんが、言葉自体は日常的に聞くことのできる言葉だと思います。

この「情熱」には2種類の状態が存在すると言われており、それぞれ「調和的情熱」、「執着的情熱」として分けられています（Vallerand et al.,2003）。調和的情熱とは、「重要と位置付けている活動と他の活動との統制がとれており、葛藤を抱えることなくそれぞれの活動に取り組むことができる状態」を指します。例えば、部活動への調和的情熱が高い学生は、部活動に取り組みながらも日々の課題や定期試験にも計画的に取り組むため、それぞれの活動の間に葛藤を感じることなく、充実した日々を送ることができます。一方、執着的情熱とは、「重要と位置付けている活動に没頭し過ぎるがあまり、他の活動との統制がとれず、その活動に対して執着的に取り組んでしまっている状態」のことを指します。先ほどの例と比較すると、部活動に没頭し過ぎるがあまり日々の課題や試験勉強が手につかず、課題に取り組めていない不安が部活動にも影響を及ぼすことから、部活動と学業との間に葛藤を抱えながら生活を送るということにつながります。このように、情熱には2種類の状態が存在しており、情熱がギャンブルへの依存（Vallerand et al.,2003）やバーンアウト（燃え尽き症候群）の抑制（Carbonneau et al.,2008）、スポーツにおける競技意欲に与える影響（藤田、2017）などについて海外を中心に研究が行われています。

この情熱という概念を用いる学術的意味は、物事に対する取り組み方を特定、分類することができるという点にあります。つまり、仕事に対して情熱的に取り組んでいるにもかかわらず仕事の成果が出ない、むしろ、心身の健康状態がすぐれない場合などに、その情熱の種類を特定して、日常生活を含めた仕事に対する取り組み方にアプローチすることで、状況の改善が期待できます。

本研究では、近年、離職率の高いと言われる保育者を対象として、情熱が保育者の精神的健康や保育の質（子どもとの関わり方など）に与える影響を明らかにすることで、状況を改善するための新たな視点、アプローチの獲得につながるのではないかと考えています。ひいては、保育職に留まらず、わが国での対人援助専門職を対象とした情熱研究発展の一助になればと思います。

優秀論文

2022年度優秀論文発表会

各学科による優秀論文・卒業論文発表会が1月28日（土）に対面もしくはリアルタイム配信・オンデマンド配信で実施されました。当日は3年生以下の学生も参加し、4年生の発表に耳を傾けていました。ここでは、最優秀論文として選考された卒業論文もしくは学科の代表として選ばれた卒業論文を紹介します。

社会学部

人間心理学科

「自閉スペクトラム症傾向と注意・欠如多動症傾向ならびに両傾向の併存に関連する睡眠の特徴の違い」

岡本 猛さん（山本隆一郎ゼミ）

本研究では、睡眠の質（不眠症状の有無）や量（睡眠時間）、位相（朝型／夜型傾向）に着目し、ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意・欠如多動症）、ASDとADHDの併存で睡眠の諸特徴に違いがあるかを検討しました。その結果、ASD傾向のみでは睡眠に関連が認められなかったものの、ADHD傾向は夜型化と関連すること、ASD傾向にADHD傾向が加わると位相後退（夜型化）がさらに強まることがわかりました。このことから、ASDやADHDを疑った際に、夜型化が認められることは、少なくともADHD傾向があることを示唆する可能性があることを論じました。

現代社会学科

「インフォーマルな贈与と顔の見える関係性 ―「おすそわけ」と「差し入れ」の比較調査から―」

沼崎杏香さん（川瀬由高ゼミ）

本研究は「おすそわけ」は何のために行われているのか、という問題意識のもと、「おすそわけ」や「差し入れ」というインフォーマルな贈与を比較し、フィールドワークに基づいて記録することで、これらがもたらす社会的な役割が何かを解き明かすことを目的としました。その結果、一見同じ行為のように見える「おすそわけ」と「差し入れ」はその関係の質が「顔の見える関係」と「顔の見えない関係」であることが明らかとなりました。

経営社会学科

「『きもの』は若者にどのくらい需要があるのか」

真野美香さん（安田英土ゼミ）

現代の生活様式では、若者が「きもの」を着る機会は極めて少ない。どうすれば若者は「きもの」を着るようになるのか？本研究では若者が「きもの」を着ない理由をアンケート調査から探りました。この結果、「きもの」に対する誤解や認識不足が若者の間に浸透していることが判明した。これらの阻害要因を解決するために、様々な機会を通じて「きもの」の着用経験を増やすことや、業界の古い体質を改善していくことの必要性を提言しました。

メディアコミュニケーション学部

マス・コミュニケーション学科

「高校生が抱える〝見えない貧困〟食生活問題の解決に校内居場所カフェが果たす役割」

竹田莉奈さん（隈本邦彦ゼミ）

校内居場所カフェとは、学校にも家庭にも居場所がないと感じている生徒のため、地域の支援団体等が学校内に彼らがくつろげる場所を作ろうという活動で、10年ほど前から全国に少しずつ広がってきました。本論文は、千葉県内に初めて校内居場所カフェを作る活動に2年間にわたって密着取材し、それが、家庭の事情等で1日3食が十分に食べられないという食の問題を抱える生徒たちにどのような影響をもたらすか、先行事例である大阪府立西成高校での取材や、自らの居場所カフェ運営スタッフへのインタビュー等を通じて分析しました。

情報文化学科

「異文化交流のツールとしてのデジタル絵本の可能性の検討」

ディヌシニワルタナジャヤチラカさん（廣田有里ゼミ）

本研究では、スリランカの仏教と関係が深い文化を日本人にもっと身近に感じてもらうために、ブッダの生前の物語の一つを日本語訳しデジタル絵本を制作しました。この絵本により、日本人はスリランカとその文化的イベントやライフスタイルを知り、理解するきっかけになるのではないかと考えました。また、デジタル絵本というツールが異文化理解に与える可能性を検討しました。

制作にはAdobe Illustratorを使用し、「Sama jathakaya（サーマジャータカヤ）」というサーマ王子の昔話をテーマにし、表紙・裏表紙を含め10ページの作品を完成させ、完成させた絵本を柏市観光協会の方に紹介したところ、スリランカの現状について話をすることができて、異文化交流のツールとしての効果を確認することができました。

こどもコミュニケーション学科

「ベビーカーの向きによる乳児の反応の違い」

佐藤唯香さん（大塚紫乃ゼミ）

ベビーカーの内向きと外向きの差によって、乳児の反応が異なるのか実験検証した論文です。3名の乳児と母親を対象に、外向きと内向きのベビーカーで散歩をしている最中の乳児の顔の撮影を行いました。その結果、外向き時には子どもは外の景色に興味を持って車や人に視線を向けており、内向き時には外にも興味を持ちつつ母親を見る回数が外向き時より多くなりました。予想以上に乳児は外の世界への興味があり、反応には個人差も見られることが実験から明らかにされました。

栄典・表彰

外部表彰

情報文化学科の学生が「令和４年度東京都 SNS トラブル防止動画コンテスト」で優秀賞

メディアコミュニケーション学部情報文化学科の川島歩さん（受賞当時は１年生）が、東京都都民安全推進部主催「令和４年度東京都 SNS トラブル防止動画コンテスト」の静止画部門で優秀賞を受賞しました。

このコンテストは、東京都都民安全推進部が近年問題となっている SNS 利用によるトラブルや自画撮り被害などから青少年を守るための啓発活動として開催しています。

川島さんの作品は「偽物の顔」というタイトルで、ネット上のアイコンの顔では本物の相手の顔がわからないことへの注意喚起を表現した作品となっています。

こどもコミュニケーション学科の学生が島木赤彦童謡コンクール一般の部で各賞受賞

メディアコミュニケーション学部こどもコミュニケーション学科の学生６名が第 22 回島木赤彦童謡コンクールの一般の部で、優秀賞をはじめとする各賞を受賞しました。コンクールは、島木赤彦研究会が、赤彦童謡のように身近なくらしを取材した作品や長野県諏訪の風土にあった作品を募集するものです。

授業「こども文学創作演習」（担当：髙橋克特任教授）と「こどもと読み聞かせ・児童文学」（担当：髙根沢紀子准教授）の受講者有志が学びの成果を表そうと挑戦し、優秀賞を島田桃香さん、優良賞を入野由朱花さん・菊地弘乃さん、佳作を齊藤夏美さん・山本栞名さん・市川果さんが受賞しました。

情報文化学科の学生が東京都ファシリテーター養成講座に参加

東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部では、中高生に適切なネット利用等の知識を習得・定着させるための講演会を実施しています。また、生徒自身が当事者意識を持ち、問題を理解し、身を守るために、生徒同士によるグループワークも実施しています。

情報文化学科の学生が、このグループワークを促進するファシリテーター（ボランティア）として参加し、都内の各校で中高生の話し合いの活性化に貢献しました。

この活動が東京都から高く評価され、４月 27 日（木）に、江戸川大学学内で感謝状贈呈式が行われました。情報文化学科の並木瞭磨さん（４年）、増田千尋さん（４年）、飯田駿太さん（３年）、石井小雪さん（３年）、柏結斗さん（３年）、一瀬友さん（３年）、グェン ティ ラン アインさん（３年）に感謝状が授与されました。

2022 年度資格取得支援制度の利用者数

資格名称	人数
実用英語技能検定（英検）２級	4
実用英語技能検定（英検）準２級	8
TOEIC　800 点以上	1
TOEIC　700 点以上	2
TOEIC　600 点以上	3
TOEIC　500 点以上	15
TOEIC　400 点以上	11
基本情報技術者試験	2
情報セキュリティマネジメント試験	1
IT パスポート試験	18
Microsoft Office Specialist（MOS）	123
Web デザイナー検定　ベーシック	7
マルチメディア検定　ベーシック	70
CG クリエイター検定　ベーシック	4
ウェブデザイン技能検定　２級（実技）	1

資格名称	人数
ウェブデザイン技能検定　２級（学科）	1
日本漢字能力検定（漢検）２級	13
簿記検定試験（日商）２級	2
簿記検定試験（日商）３級	9
ビジネス会計検定　２級	1
ビジネス会計検定　３級	8
ファイナンシャル・プランニング技能検定（FP）２級	2
ファイナンシャル・プランニング技能検定（FP）３級	8
総合旅行業務取扱管理者	1
国内旅行業務取扱管理者	3
宅地建物取引士	1
秘書検定　２級	7
秘書検定　３級	48
ファッションビジネス能力検定　３級	6
イベント検定	5

資格名称	人数
准 PR プランナー	1
PR プランナー補	6
日本語能力試験　N1（留学生対象）	1
BJT ﾋﾞｼﾞﾈｽ日本語能力テスト 600 点以上（留学生対象）	1
BJT ﾋﾞｼﾞﾈｽ日本語能力テスト 480 点以上（留学生対象）	2
睡眠改善インストラクター	8
ニュース時事能力検定　２級	3
ニュース時事能力検定　準２級	2
ニュース時事能力検定　３級	3
eco 検定（環境社会検定試験）	2
世界遺産検定　２級	2
世界遺産検定　３級	12
合計	428

施設・設備

D棟の教室拡張および専門学校（G棟）の一部教室の変更

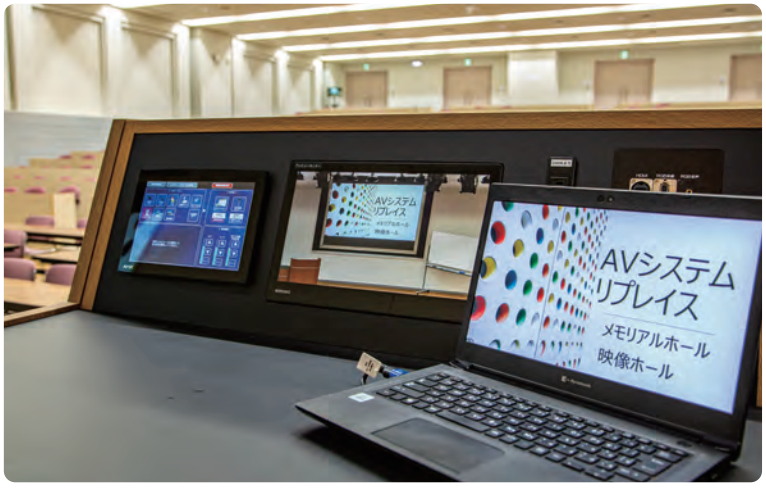
学生数の増加に伴う教室キャパシティの不足に対応するためD棟221教室・321教室について、ゼミ教室を中規模教室に拡張する工事を行いました。この工事により、130人規模の教室が2つ設置されました。この工事に伴って不足したD棟のゼミ教室は、専門学校のあるG棟2階の演習室など、小規模教室計5教室を大学専用教室に変更し、確保しました。

K棟のリニューアル工事を実施

K棟をフィールド調査のためのマルチな学習室としてリニューアルしました。今後は、フィールド調査結果の解析などに必要なGIS（地理情報システム）の自習や、フィールドワーク現場で調査を実施している場面を中継・投影・録画することを可能にしていく予定です。フィールド研修や調査などの記録・写真・レポート・卒業論文を共有できるアーカイブも順次構築され、現代社会学科の学びの特徴「フィールドでの学び」を支え、促進する自主学習室として活用されます。

AV機器の設置・更新

D棟221教室、321教室に新規AV機器を設置しました。新規AV機器には、最新のレーザー光源プロジェクタが導入されています。また、B棟メモリアルホール、E棟映像ホールのAV機器を更新しました。デジタル化によりHDMI入力に対応し、高解像度プロジェクタで高画質の出力が可能となり、視認性が格段に良化しました。天吊りカメラも更新され、配信用ノートパソコンが設置されました。これにより、ハイブリッド授業を行う際にスライドとステージ上の講師の姿を同時に配信することなどが可能になっています。

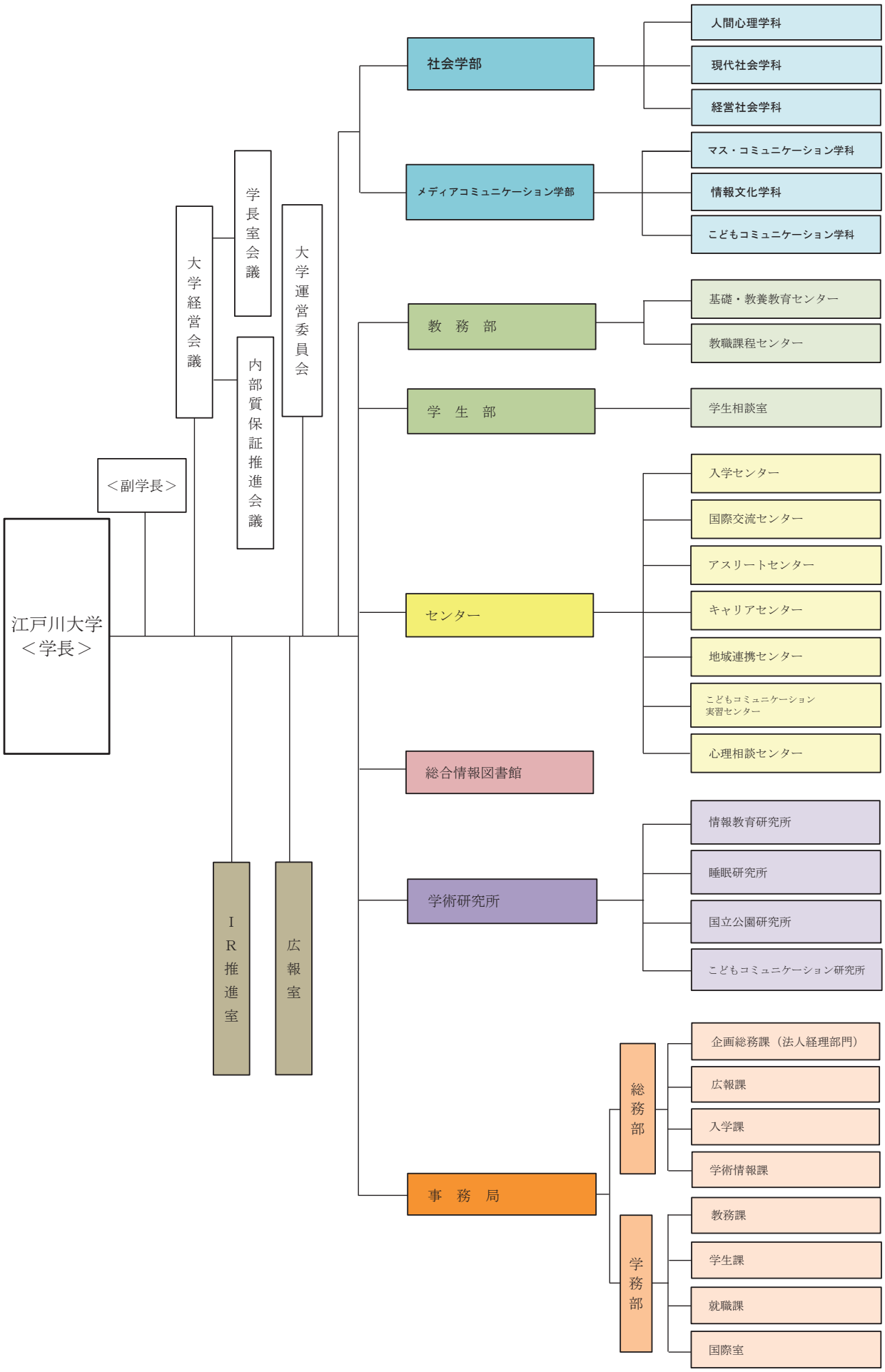


メモリアルホール、映像ホールはリアルタイムネット中継が可能

2023年度　科研費交付内定一覧

	開始年度	終了年度	研究種目	部局名	職名	氏名	研究課題名	直接経費	間接経費	経費合計
1	2023	2025	基盤研究 (C)	社会学部	准教授	関根理恵	武力紛争時の文化財保護に関する研究－第二次世界大戦期を事例として－	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2	2023	2025	基盤研究 (C)	メディア コミュニケーション学部	講師	蛯原正貴	保育への情熱が保育者の精神的健康及び保育の質に与える影響	2,600,000	780,000	3,380,000
3	2023	2025	基盤研究 (C)	社会学部	教授	浅岡章一	集団成員の睡眠不足が集団パフォーマンスに与える影響	2,400,000	720,000	3,120,000
4	2023	2027	若手研究	社会学部	講師	川瀬由高	漢人社会研究における非集団論の理論的定位	3,500,000	1,050,000	4,550,000

2023年度　江戸川大学　教育・研究・事務組織図



2023年度 学内研究助成金配分表

学部

（単位：円）

		研究者名 ○代表者	研究題目	計画年数	配分額	備考
社会学部	人間心理学科	○ 浅岡章一 山本隆一郎 西村律子 野添健太	内受容感覚と睡眠に関する包括的 Web 調査研究	単年度	1,100,000	新規
		○ 西村律子 浅岡章一 山本隆一郎 野添健太	睡眠習慣の乱れが与える認知機能への影響は年齢によって異なるか？ ー記憶（ワーキングメモリ）への影響の検討ー	2年度	745,000	継続 2年目
		○ 西村律子 浅岡章一	睡眠の乱れによる認知機能の変動が幽霊遭遇体験に及ぼす影響 ーオンライン実験を用いた検討ー	単年度	360,000	新規
		計（3件）			2,205,000	
	経営社会学科	○ 伊藤 彬	大学男子バスケットボール選手における傷害調査	2年度	700,000	新規
		○ 髙野直樹	離散的選択モデルを用いた第5世代移動通信システム（5G）の需要分析	2年度	408,000	新規
		○ 安田英土 周楊華	在日外資系企業のイノベーション活動の分析	単年度	610,000	新規
		計（3件）			1,718,000	
社会学部合計（6件）					3,923,000	
メディアコミュニケーション学部	マス・コミュニケーション学科	○ 新井正彦 鈴木秀生	ニュージーランド海外研修における課外活動プログラムによる教育的効果に関わる研究 ～ニュージーランド研修の現地調査をもとに～	単年度	220,000	再申請
		計（1件）			220,000	
	情報文化学科	○ 小原裕二 山口敏和	STEAM 教育を実現するためのアクティブ・ラーニング教材開発 ～高大連携での実践を踏まえて～	2年度	480,000	継続 2年目
		計（1件）			480,000	
ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部合計（2件）					700,000	

研究所・センター

（単位：円）

	研究者名 ○代表者	研究題目	計画年数	配分額	備考
基礎・教養教育センター	○ 福島亜理子 三谷彩華	音声を活用した授業改善の検討	単年度	333,000	新規
	合計（1件）			333,000	
国際交流センター	○ 三谷彩華	IT 系の資格取得を目指す留学生のための日本語教材の開発	単年度	154,000	新規
	合計（1件）			154,000	
睡眠研究所	○ 福田一彦 浅岡章一 西村律子 山本隆一郎 野添健太 奥山慎也 原真太郎	大学生における睡眠習慣が大学生活に与える影響 ー縦断調査を用いた検討ー	5年度	170,000	継続 4年目
	合計（1件）			170,000	
情報教育研究所	○ 玉田和恵 松尾由美	価値創出を目指した ICT 問題解決力育成のカリキュラム開発と展開 ～文系私立大学への普及を目指したデータサイエンス・AI 教育の試み～	2年度	850,000	継続 2年目
	合計（1件）			850,000	
研究所・センター合計（4件）				1,507,000	
総合計（12件）				6,130,000	

教育改革推進経費採択課題

教員名	予算要求額	決定配分額	改革案タイトル	実施予定時期
浅岡章一	652,900	652,900	本学における合理的配慮提供の実現に向けた組織的取組	2023年4月
山口敏和	200,000	200,000	e ラーニングシステムを用いた学びの習慣付けおよび初年次からのキャリア教育支援	2023年4月

小さき足跡十二号（昭和三十一年発行）

創立二十五周年　江戸川学園物語　第五回

「小さき足跡」は、当時の江戸川学園理事長であった木内きぬ先生が原稿を執筆し、江戸川女子高等学校の先生と生徒が編集した冊子です。十二号は、創立二十五周年を記念して、江戸川学園物語をまとめられました。原文のまま連載します。

昭和廿七年一月五日午前十一時十分、江戸川女子高等学校並びに江戸川中学校長兼理事長木内栄三郎の訃報は都下各新聞の報ずる所となつて、壱千餘名の卒業生、友人知人に伝つた。こゝに校葬の礼を以つて学園再生の恩人を葬つたのである。香煙蒙々として会葬の群は堂にこぼれた。

若き命育む業に生涯を捧げし人の足跡は消えず

此の時の葬儀委員長は松岡先生の代から終始一貫この学校に籍をおかれる杉浦ちづ先生が務められた。

二つの壺

小さな命は失われて　石室深く埋められてしまつた
親達の嘆きを外に　それから廿年
今その傍にさゞれ石のように真白な　光の通らない石室の中に
あなたの骨が　家族が一人殖えたとて
稍々大きなつぼに入れられて　別に喜びも悲しみもない
寄り添うように置かれた　のぞいてはならない神秘を見るように
且つて血の通つていた二つの生命も　薄光の中に息をつめて凝視めて居た
今は大きな壺、小さなつぼに過ぎない　人々の手向ける香煙が
だが私にはかけがえのない宝玉　早春の空に解けて行く、残されし者のうつろな心。

三度バトンは渡されて

先づ陣容を整えることが先決問題である。理事会の決議によつて、私が理事長に、木内一郎氏が校長兼理事。

佐藤金屏株式会社々長　佐藤保氏（理　事）
県立筑波学園長　岡野豊四郎氏（　仝　）
専賣局事務課長　山中久一氏（　仝　）
岩崎勝二氏（会計監査）
沼館定廉氏（　仝　）
宜伝社々長　石塚信夫氏（ＰＴＡ会長）

そして評議員五名が卒業生、職員の中から選出されて、スタートは切られた。幸にして三代目現校長は、青山師範が旧制高等師範を卒業して公立学校に一ヶ年の経験を持つていたので、教育の面はお委せして、安心であつたので、私は専ら事業面に力を注ぐ事にした。大へんな男気が必要であり、悲壮な決意は時に悲願にさえ思えて来る。

『故人に祈りつゝ休当りでやつて行け日！』それが私のモットーであつた。陣容が整つたら、教育の場を新らしくして環境をよくしなければならない。故人の卅五日も無事に済ませて、私は旧校舎の改築を決意した。がその原動力をどうするか、その頃は未だ私立学校三法案も遥過してない、従つて私学振興会に頼るわけにも行かなかつた。

岡野理事の賛意を得て、昭和廿七年五月一日二人は佐藤氏を訪問した。仝氏の木内に対する信用は、私に対する信用にまで延長していたことを知つて涙がこぼれる程うれしかつた。

それは故人の餘徳というものであろう、佐藤理事は資金面の裏付けを確約して下さつた。

之に力を得た私は直ちにＰＴＡ会長を訪問してそのむきを相談すると、大へん喜んで下さつて、すぐ委員会を開いて江戸川学園改築後援会を組織して下さつた。八月の暑熱をおかしで東奔西走会長初め委員の方々はよく協力して下さつた。

かくて十一月五日創立記念日には講堂並びに二階二教室が完成した。

グリーンと白壁の朋るい調和　末摘花が表れて平安絵巻が繰り広げられ
遂に竣工を見た学園の講堂　時にバッハの曲目が流れて
手足も青春の心も　組合せ式の床板にひゞく
のびのびさせて　建設の苦悩を乗り越えた喜びが
娘達は踊る　かすんだ網膜を往来する
ステージに光源氏が現れ

（出典：小さき足跡十二号「創立二十五周年江戸川学園物語」）

Event　2023年度に予定されているイベント

駒木祭　11月2日（木）、3日（金・祝）

江戸川大学の学園祭は、学生で組織する学園祭実行委員会が中心となり、毎年、学科やゼミの教育研究活動の展示をはじめ、模擬店の出店や様々なイベントが行われます。

江戸川ガールズアワード　11月3日（金・祝）

社会学部経営社会学科のファッション・音楽ビジネスコースでは、「演習・実習」科目での取り組みとして音楽とファッションの融合を発信するイベント「Edogawa Girls Award」の企画から運営までを実施しています。

14回目となる今回は、日本全国の音楽が好きな高校生で、女性をボーカリストにしたバンド又は女性ソロアーティストを対象とした、「NEXTAGE ARTIST Audition」を実施します。決勝進出者5組（予定）には11月3日学園祭当日に開催される「Edogawa Girls Award」の決勝審査で、オリジナル曲を生披露していただきます。

研究所主催イベント

第11回情報教育研究会　7月30日（日）
第11回サイエンスセミナー　8月7日（月）
こどもコミュニケーション研究所フォーラム　11月3日（金・祝）

※この他のイベントを含め、詳細が決まり次第、各研究所のウェブページでご案内します。

学長のカレータイム「辛口（意見）甘口（意見）どんとこい!」

小口彦太学長は、「学生の生の声を大学運営にいかしたい」という思いのもと、2016年からお昼に学生たちとカレーを食べながら談笑するカレータイムを実施しています。新型コロナウイルスの影響で、2019年以来、4年ぶりの開催となった今年は、エドポタ（ポータルサイト）やポスター等で幅広く在学生に呼びかけ、1回目は現代社会学科、経営社会学科、情報文化学科所属の男子学生3名と行いました。初めは緊張した面持ちの学生達でしたが、次第に打ち解けて、和やかな雰囲気で会話を楽しんでいました。今後は月に2回のペースでカレータイムを実施予定です。

現代社会学科の学生が千葉県誕生150周年記念「ちば文化資産」オリジナルフレーム切手デザインコンテストで受賞

社会学部現代社会学科4年の遠山海斗さんが、「ちば文化資産」オリジナルフレーム切手デザインコンテストの【絵画部門】一般（16歳以上）の部で受賞しました。

このコンテストは千葉県誕生150周年を記念して開催され、厳選なる1次審査の結果、応募総数1107作品の中から20作品が受賞作品として選ばれました。その中でも投票で選ばれた10作品は、「千葉県誕生150周年記念オリジナルフレーム切手」として販売されます。

みごとにコンテストを勝ち抜き、上位10作品に選ばれた遠山さんの作品は、「晴天の浅間神社」というタイトルです。気品と落ち着きのある浅間神社を描いた作品となっています。

遠山海斗さん（4年）のコメント

現代社会学科で学んだ「異文化を感じるためには、まず自文化を理解しなければならない」という考えのもと、私が育った千葉県に趣味を生かして貢献できる本コンテストに応募しました。募集条件である「ちば文化資産に関するもの」を充たすものとして、馴染みのあった千葉市の「稲毛浅間神社」が浮かびました。制作にあたっては、切手としてデザインされることを念頭に置きながら、色彩豊かに、かつ浅間神社の気品と落ち着きを表現しようと心がけました。投票をしてくださった方々に心からお礼申し上げます。

遠山海斗さんの作品「晴天の浅間神社」

◎編集後記

学報の作成にあたり、キャンパスの写真を撮ろうと学内を歩いた際、学生が教室で真剣に授業を受ける姿や、友人同士語らい楽しそうに過ごしている光景を目にしました。新型コロナウイルスも5類に移行し、制限も徐々に解除されています。学生たちには今まで我慢してきた分、思いっきり学生生活を謳歌してほしいと思います。

今年度は4年ぶりに江戸川ウォークが開催されました。雨模様が予想されていましたが、天候にも恵まれて無事開催することが出来ました。マスク着用も緩和されたことで、学生たちの笑顔を見られたことがとても印象に残っています。

江戸川大学学報
2023年6月号　第52号
Vol.22 No.1　令和5年6月30日発行
発行　江戸川大学　事務局　総務部広報課
〒270-0198　千葉県流山市駒木474
TEL.04-7152-0661